



県下一周駅伝で曾於チームが 14年ぶりの日間優勝！

2月13日(土)から17日(水)にかけて『第68回 鹿児島県下一周市郡対抗駅伝競走大会』が開催され、県内12地区の代表選手が53区間583.8kmを駆け抜けました。

郷土入りとなった16日(火)、本町唯一の中継所である三文字中継所では、第2位で中野良平選手(曾於市出身)から鮫島喜樹選手(曾於市出身)へ襷が繋がれました。

襷を受けた鮫島選手は先行する肝属チームを9区の最終盤で追い越し、曾於チーム日間優勝の結果に大きく貢献する力走をみせました。

中野選手は「気合を入れて臨んだ郷土入りの地で2位で襷を渡すことができよかったです。途中苦しいときもありましたが、気力で走りました」と振り返りました。

大会の総合順位は、日置チームが1位に輝き曾於チームは第9位という結果でした。



松林を気持ちよく走りました クロカンでミニ駅伝大会実施



2月20日(土)、くのにの松原クロスカントリーコースにおいて、中学生を対象にミニ駅伝大会が実施されました。

これは、大隅アスリートサポートチームの児玉貴洋さんが中心となり企画されたもので、県下一周駅伝に出場した選手らが運営のサポートを行うなか、大崎町、曾於市、肝付町から中学生が参加し、20kmを走りました。

当日は晴天に恵まれ、参加した中学生らのクロスカントリーコースを気持ちよく走る姿が印象的でした。

地産地消の普及・啓発を！ 標語コンクールを実施しました



1月29日(金)、大崎町食農運営委員会が主催する『食育・地産地消標語コンクール』に大崎小学校2年の須藤稜子さんが最優秀賞に輝き、その贈呈式が大崎小学校でありました。

これは地産地消の普及・啓発を目的に、町内各校より選ばれた35点の作品の中から選考されました。

最優秀賞に選ばれた須藤さんには賞状と副賞の地元産うなぎが贈られました。

最優秀 賞作品 『人とつながる じ元の食ざい しあわせいっぱい 大きき町』